

新聞雜誌

明治壬申三月

第卅五號

定價二匁



特	別
18	
787	
35	



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セザルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑恠ムク多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 太政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシ斯テハ逢カタキ世ニ生レシカヒ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞紙局ヲ開キ 太政ヲ始メ諸府縣ノ變革又ハ
 里巷ノ瑣事外國ノ異聞マデ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中ノ
 人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻メル事ヲ棄ントテナリ願ハ此冊子
 ヲ讀玉フ人々ヲ開テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナル驚
 ベク喜ベキ事多ク唯一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レズ夏虫氷ヲ疑ノ笑ア
 リト知玉ヘサテコソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ベケレ



新聞雜誌第卅五號

明治五年壬申

- 三月十三日 天皇文部省中博物館へ行幸今般博覽
ニ出ル中外古今ノ物品ヲ 散覽在セラル、由同十日
ヨリ晴雨ニ拘ハラズ開場世人ノ縱觀ヲ差許サレタリ
- 宗外務大亟傳來ノ 天國刀宮内省へ献納セリト云
- 今般兵部省ヲ廢セラレ更ニ海軍省陸軍省ヲ置レタリ
- 自今産穢ハ憚ルニ及バサル昔御布令アリタリ
- 三月二日ノ御布令ニ今般有下家屋建築ノ儀ハ火災
ヲ可免タメ一般煉化石ヲ以テ取建候様可致旨被仰出

新聞雜誌 第七十五號

候ニ付テハ孰レモ篤ト其趣意ヲ辨ヘ可申候古家屋ノ
 義ハ先々ヨリ塗屋土藏造リニイタシ候様最舗申渡候
 趣モ有之處兎角從來、弊習ニテ毎々火災ニ遇候ハ當
 然ノ様相心得家屋建築ノ方法等ニ注意候者無之專ラ
 一時コ凌キ候假家作ニテ甚舗ニ至テハ茅葺而已ノ場
 モ有之夫ヨリシテ飛火所々へ相移リ隨テ消防セ行届
 兼候場合ニ立至リ就中去年北六日類焼町々ノ如キハ
 己年火災後間モ無之又々現今ノ姿ニ相成實以不容易
 事ニ候抑今口ノ府下ハ以前ニ愛リ 輦轂ノ下ニ相成
 候處是迫ノ如ク毎度ノ大火ニテハ上ハ奉惱 宸襟甚

以恐入候ハ勿論下方ニ取候テハ家屋ノ製其宜ヲ不得
 シテ家財等屢々焼失イタシ就テハ第一家産ノ目的モ
 不相立且又多年ノ苦辛ヲ以テ相調ヘ候財本一時ニ灰
 燼ト相成候儀莫大ノ損毛ハ不及申孰レモ不恐次第ニ
 付此度類焼ノ町々道幅取廣ケ家屋ハ渾テ煉化石ヲ以
 テ早速建築取掛リ候様可致最尋常ノ家作ヨリハ入費
 一層相増可申ニ付夫等ノ處ハ銘々遺憾不相成様御取
 調ヘノ上別段仕法相設不日御施行可相成筈ニ付右ハ
 過日類焼ノ者共本家作ノ儀ハ見合候様申渡置候次第
 モ有之候ニ付不取敢此旨相達候条心得違無之様可致

云々

○二月下旬ノ御布令ニ各港在留ノ支那人共我貧民ノ
 幼兒ヲ買取候儀ニ付テハ去庚午八月中相違候得共未
 タ右様ノ處業致シ候者モ有レ之哉ノ趣畢竟内國人ヨリ
 賣渡候故支那人ニ於テモ買取ニ到リ候次第ニテ御國
 禁ヲ犯シ不容易儀ニ付向後右等不心得ノ者於有レ之テ
 ハ嚴重處置可致候間地方官ニ於テ管内取締學ク可加
 教育候云々

○府下火消人足齋頭其外道具持等今般合議シ從來ノ
 結髮ニテハ作業ノ間不便ナリトテ一同斷髮セリ

○從來火消齋ノ者唱へ来リシイロハ組ノ稱并纏印ヲ
 廢セラレ更ニ每區番數ヲ以テ組合ヲ定メ内各ホシ
 組ヲ設ケラレ纏印提燈印ヲモ御改正相成タリ

○近頃府下ニテ往々女子ノ斷髮スル者アリ固ヨリ我
 古俗ニモ非ス又西洋文化ノ諸國ニモ未タ曾テ見ガ
 ルニテ其醜陋風見ルニ恐ビス女子ハ柔順温和ヲ以
 テ主トスル者ナレハ髮ヲ長クシ飾リヲ用ユルコソ萬
 國ノ通俗ナルヲイカナル主意ニヤアタラ黒髮ヲ切捨
 テ開化ノ姿トカ色氣ヲ離ルトカ思ヒテスマシ顔ナ
 ルハ實ニ片腹イタキ業ナリ此說既ニ府下諸新聞ニ掲

載シテ言フ待ガルヲナレド又別ニ洋學女生ト見エ大
帶ノ上ニ男子ノ用ユル袴ヲ着シ足駄ヲハキ腕ヲクリ
ナトシテ洋書ヲ提ケ往来スルアリ如何ニ女學生トテ
猥ニ男子ノ服ヲ着シテ活氣ガマシキ風俗ヲナスヲ既
ニ學問ノ他道ニ馳セテ女學ノ本意ヲ失ヒタル一端ナ
リ是等ハ孰レモ文明開化ノ弊ニシテ當人ハ論ナク父
兄タル者教ヘサルノ罪ト謂ツベキナリ

○第十三號ニ誌セル府下本郷ノ今山吹ト呼ヘル少女
ハ元湯嶋六町目ノ菓舖齋藤太郎左衛門ノ一女也父ノ
好事ニ因リ幼稚ヨリ劍法柔術讀書手跡等ヲ學ヒ傍ラ

相者鷺津一學門ニ入リ三元九星術ヲ得タリ茲ニ同街
ノ書家細川晃南ナル者ト通シ俱ニ亡命シ竟ニ晃南ノ
妻トナリ晃龍ト号セリ然ルニ賢父太郎左衛門晃南ヲ
見限リ女ヲ伴ヒテ家ニ歸レリ晃南常ニ是ヲ憤リ居シ
カ二月廿一日兩國中邑樓上植村蘆洲ノ妻高花亭カ書
画會席ニ於テ不圖出會シ強テ女ヲ伴ヒ歸ラントセリ
女困迫ノ折カラ席中ニ居合シタル邏兵乱暴人ト見認
メ晃南ヲ捕テ屯所ニ引キ女ト突合セ糾問セシニ女ハ
離別ノ書ヲ取タリト云晃南ハ不渡トテ爭論決セス晃
南逆上シテ不敬ノ言ヲ奏シ大ニ邏長ヲノ、シリシ由

其後ノ慶置如何決セシニヤ雅會中ノ大俗件ニテ衆人
一齊抱腹絶倒セシトソ

○第七七號ニ記載セル三河國渥美郡飯色ノ里正等
曲ノ事突覺シ二月中旬大藏省ヨリ伊藤某ヲ彼地ニ遣
ハサレ情實探索ノ上姦魁猪三郎ヲ捕縛シ貧民エハ救
助トシテ許多ノ金ヲ賜ハリ一村枯魚ノ水ヲ得タル心
地ニテ愈^{イヨク} 朝廷御仁恤ノ深キヲ感佩セリト云

○二月十八日 皇城大手御門ニテ乱暴セシ者共ノ儀
ニ付足柄縣ヨリ届書ノ畧ニ云

名古屋縣内海村船頭佐兵衛ナル者又寶丸廻船十三人

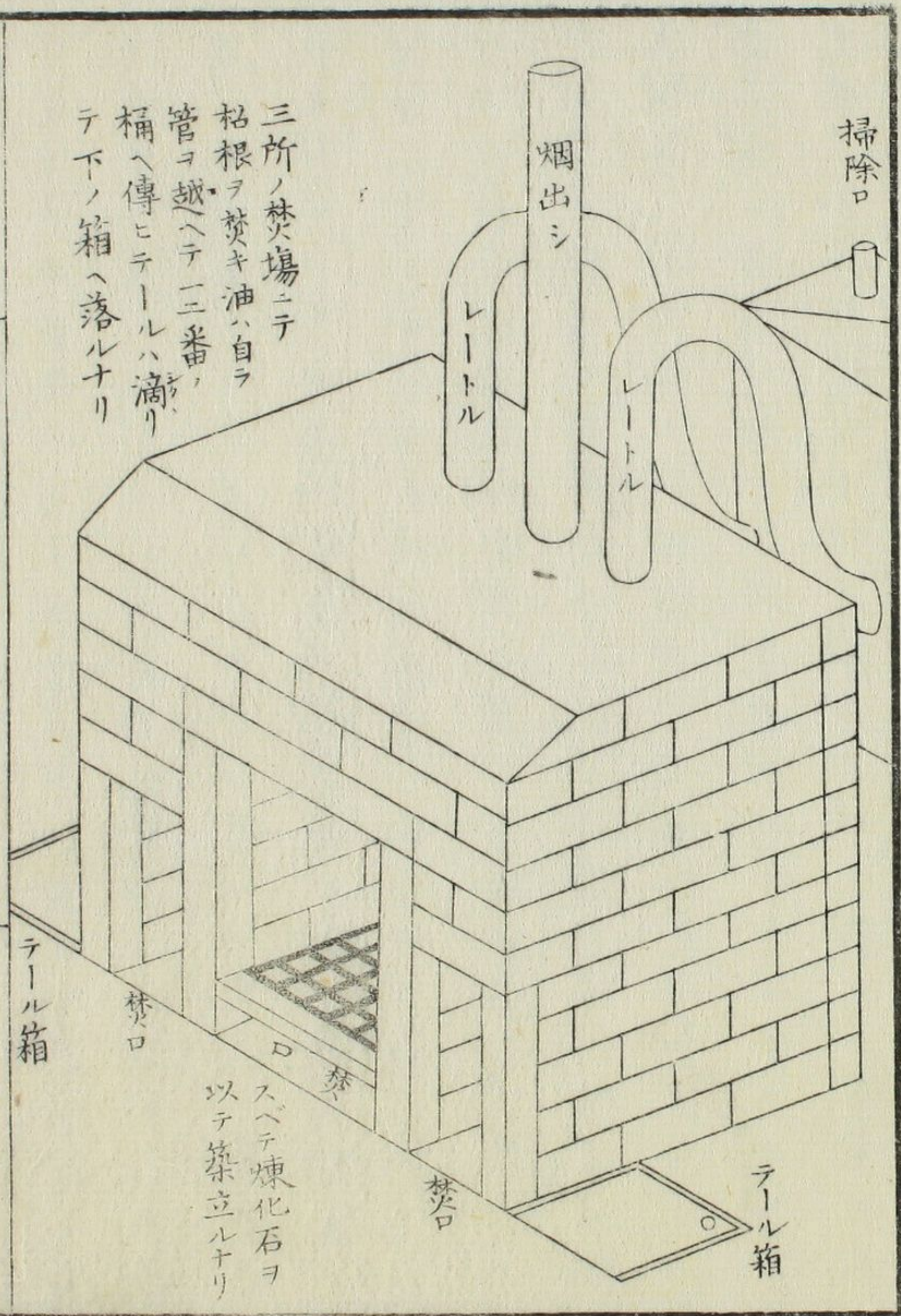
乗組ニテ二月七日當縣管内加茂郡網代村エ入津セリ
乗組ノ内擲取某御嶽神社信仰祈禱^{イハナヒ}ヒ等イタス由ニ
テ近隣ノ者多ク參集セリ然處同月十日頃ヨリ右擲取
先達トナリ佐兵衛ヲ始メ一同白衣ヲ着シ何カ祈念^{イハナヒ}在
シカ同十三日俄カニ宿賃等相拂^{ハハラフ}ヒ滯留中洗濯女四人
雇置タリシヲ暴^{ヒコカ}ニ其髮ヲ切り男子ノ衣類ヲキセ是迄
ノ衣類ハ盡ク海中エ投捨^{ナゲテ}且ッ四人ノ女買受タキ旨申立
タリシカ漸クニシテ相断^{コトワリ}タリ全ク狂人同様ニテ船宿
喜兵衛ナル者兼テ入置シ塩代金五拾四兩ノ證書其他
衣類ニ至迄織^{カガス}シキ物品ハ持參シガタシトテ夫々懇意

ノ者共工遣ハシ急速出帆イタセリト云々

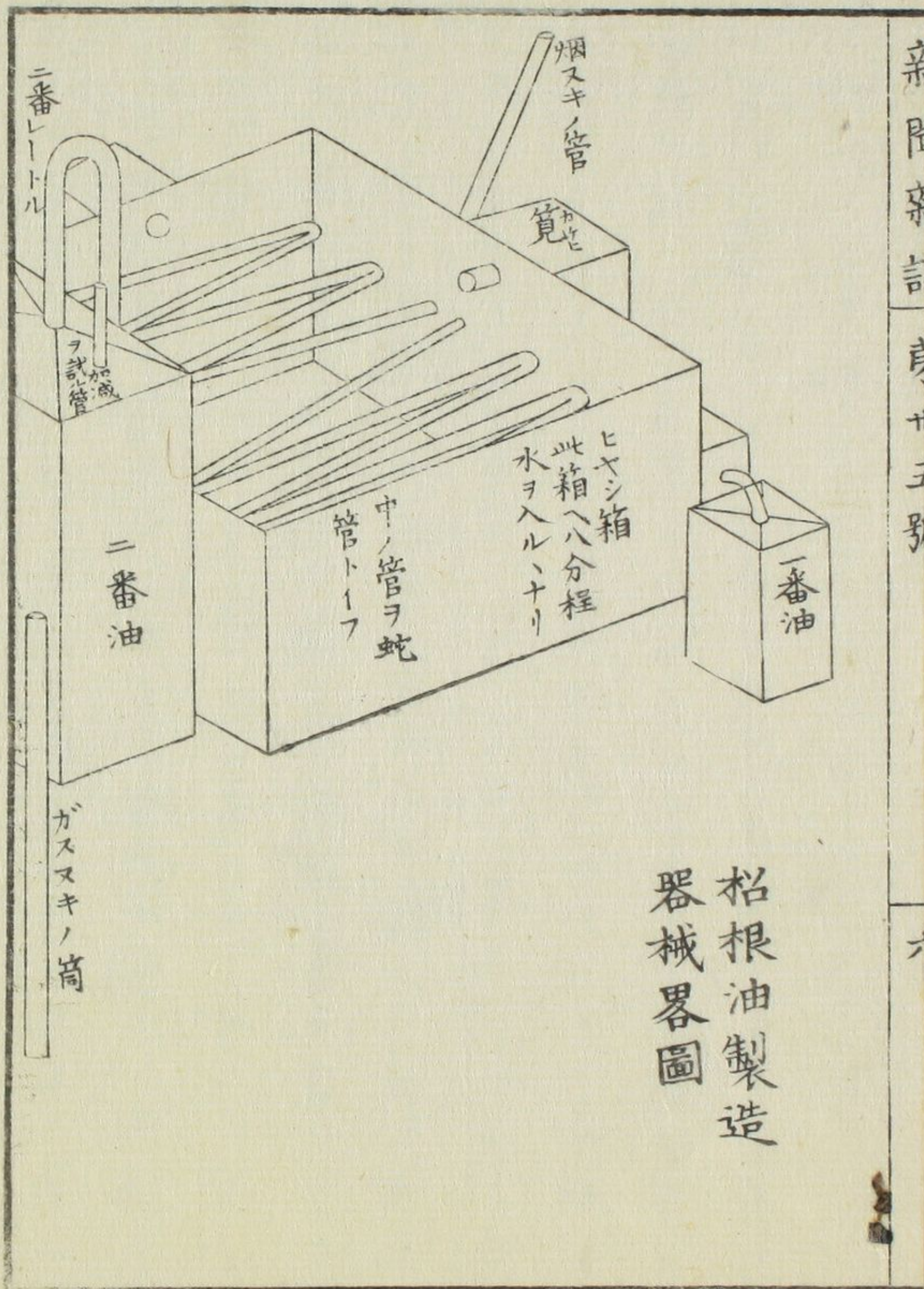
○府下駿河臺ニテ近頃尊神舎ト称シ小キ道場ヲ取建
尊神工ミ給ヘト唱ル一派ノ神道者流本町石町邊ノ者
共数十人日々會議シ何事カ府廳へ出願セシ由

○近頃渡邊慶長發明ニテ松根油ヲ製スル一器械ヲ造
レリ今其報條ト畧圖ヲ左ニ掲ケ世人ノ考驗ニ供ス
夫我國ノ山野ハ柘林最多シ其材以テ家屋ヲ作ルヘク
舟車ヲ製スヘシ而ノ其根ノ如キハ徃々無用ノ物ニ屬
セリ今之ヲ活用スルハ油テールヲ製スルニ若ハナシ
其油精製スレハ色潔白ニシテ焰氣立ズ以テランプニ

供スヘシ總メ他ノ油ニ合併シ常用スルニ寒氣ニ凍ル
トナク火勢強ク清明ニシテ其功種油ニ優レリ又油ヲ
取リシ殻ハ炭トナリテ是亦用ニ違スヘシ譬ヘハ世ノ
舟ヲ作ル者多クハ其底ヲ燒キテ腐敗ノ憂ヲ防ケリ今
此テールヲ用ユレハ数年ノ久シキヲ経ルト雖水素
ヲ避ケ窒素ヲ防キ腐敗ノ害ナキ而已ナラス能舟ヲ乾
カシ又能輕クシ其大益アル檢査シテ知ルヘシ今般
官許ヲ賜リ因テ海内ニ流布シ四民同シク其利ヲ受ケ
ント冀望スト云々又右有志ノ輩ハ府下本所松井町
二町目大黒屋林三郎方エ御來訪ヲ冀フト云々



新開雜記 庚午五月



枳根油製造 器械畧圖

○當正月中南校ニ於テ理學化學法學重學星學等ノ專門學校ヲ設ケラレシニ入學ノ生徒僅ニ二拾名ニ不過其中專門科ノ生徒タルベキ者一名ニシテ未夕專門學校相開クベキ時機ニ不至一先閉校イタシ他日學者ノ進步ニ應シ再度可相開旨御達ニ相成タリ

○印幡縣下總國都賀郡大前村小學郷校規則五條
 一學問ノ趣意ハ第一躬行ヲ勵ミ信義ヲ守リ倫理ヲ辨
 一篤實ノ人ト成ヘシ此志ナキハ假令經義ニ委舖百家ノ書ニ涉リ詩文ニ巧ナリ凡皆道ニ非スシテ學問ノ本旨ヲ失フ各心得違不可有之事
 一子弟タル者家ニ在

テ父兄ニ事ヘ親族朋友ニ睦舖成長ニ從ヒ其學ヒ得シ處ヲ以テ家業專務ニ心掛可申事
 一身ノ分限ヲ知事學問ノ肝要タリ總テ御法令ヲ常ニ心得居リ非分不法ノ所業有之間舖事
 一農隙ニ學問出精スルハ勿論也ト雖凡文雅風流ニ流レ質素ノ風ヲ失ヒ申間舖事
 一御政事ヲ議シ人ノ短ヲ揚ケ其他無益ノ雜談ニ耽リ教師ノ教戒ヲ違犯致ス間舖事

○第五大區小ハノ區淺草花川戸一番地智花院寺内ニ住セル尾志田ノ計以ト云ル婦人兼テ藝妓二人ヲ抱エ居シカ其主人ハ元佐渡ノ産ニテ多年武州五日市邊ニ

往來シ博徒ノ頭黒澤大五郎ト呼ビ盜賊ヲ働キタリ當
正月中私用ニテ甲州邊へ趣キシ留守中平生ノ奸惡露
顯シ二月廿日四ツ谷屯所邏卒花川戸ノ宅ニ行キ計以
テ召捕タリシ由右大五郎ハ東海道小田原宿ニテ捕縛
セラレ外ニ同類十五人内女二人有之ト云

○府下淺草藏前邊ノ伊勢屋某洋風ニ志アリ妾夫一子
ヲシテ斷髮セシメ猶妻ヲモ斷髮セシメントスルニ妻深ク
之ヲ歎キ不肯シカハ終ニ強諭シテ其黒髮ヲ斷タリ然
ルニ已レハ依然タル從前ノ半髮大醫ナル由

新聞雜誌第廿五號終

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バザル處多シ願クハ同好ノ人
何事ニヨラズ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
ハ次第ニ刊行宛免スベシ但寄玉フ書付ニハ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件

- 一 田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
 - 一 新發明巧器及書籍等ノ賣買
 - 一 產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
 - 一 金銀其外ノ貸借等
 - 一 諸船ノ入港出帆積荷ノ物件等
 - 一 失物尋物等
 - 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札
 - 一 見世モノ集會等ノ引札
- 右等何レモ一行セ三字一度出板價三匁宛同事件二度分ハ五匁五分
三度分ハ八匁ニテ御引受イタシ候

新聞雜誌定價一號銀二匁 每週出板

當時發兌號ヨリ先キ十冊分引受候向ハ定價ヨリ一割半引

同二十冊分ハ二割引 同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望ミノ人ハ本局へ御引合ノ上御相談可申候

本局

東京兩國若松町

新 堂

東京兩國横山町三丁目

和泉屋金右工門

東京芝三島町

和泉屋市兵衛

大坂心齋橋通

河内屋吉兵衛

東京東洞院三条上ル町

村上勘兵衛

東京日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛

大坂心齋橋道

河内屋喜兵衛

大坂心齋橋通安土町

河内屋清七

東京日本橋釘店

和泉屋壯造

賣弘所